

第4回京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議 開催概要

●日 時 平成28年1月26日(火) 13:30~15:30

●場 所 市民交流プラザふくちやま

●内 容

1 あいさつ(京都府)

今年度の目標としてやってきたこと、まずは、舞鶴養成校を開校いただいたこと。これは近い将来の人材確保を積極的に進めて人材を集めていく、注目していただけるような取り組みにしていきたい。福知山でも現任者研修を積極的にやっていただいている。この地域で育成していくという視点をもって取り組んでいただき、その効果が地域に広がっていけばと思っている。宮津総合実習センターをどのように動かしていくのか、核となる3つの施設をどのように動かしていくのが来年度のテーマとなると思っている。

2 報告・協議事項

(1) 宮津総合実習センターについて

●みねやま福祉会

今後のスケジュールについては、平成28年3月着工、平成29年4月事業開始の予定。実習センターで何をやるのかについては、一つは資格取得のための実習受け入れを行う。舞鶴YMCA国際福祉専門校の介護福祉士養成の受け入れ、それから学校、大学のインターンシップ、暁星高校とも連携をしながら人材育成していきたい。福知山施連協さんの授業も、場所をこちらのほうで研修を受けられるような体制をとっていきたい。認知症研修、医行為は北部医療センターとの連携をやっていきたい。宿泊機能について、夜間、資格取得で実習に来られる方は日中は講義があるが、夜間に職員・実習生同士の交流、勉強会、発表会などを開催して、それぞれ刺激を受け合っていけたらと思っている。

●宮津市

今年夏までには、プラスアルファの部分のカリキュラムをみねやま福祉会さんと協力して作りたい。夏以降に、大学、専門学校などへ広報をしていきたいと思っている。

(2) 舞鶴養成校について

●舞鶴YMCA国際福祉専門学校

今年度14名でスタートしたが、次年度は現在21名が入学決定している。介護福祉士養成校の全国の定員充足率は3割という状況であり、京都府北部のシステムの中で定員の半分というのが、多いのか少ないのかわからないが、これが現状。リサーチしていると大方が舞鶴市の奨学金を使うという状況になっている。介護福祉士をもった新しい方が職員となっていくが、基本的には3年後全部が舞鶴の施設での就業になってくる。他市の奨学資金情報あれば、広報を強化いただくと我々としては助かります。養成校としては何度も高校に行って話をしているが、各校の進路担当者も優先順位があり、直接ご本人さん、保護者に伝えることが難しい状況。学校の先生を通して以外に、直接学生さん保護者に伝わる方法をぜひ検討いただきたい。最終的には京都府北部に介護福祉士を持った学生が多く就職できるようになればと思っている。

●舞鶴市

高校訪問、広報誌の掲載、パンフレット作成等を積極的に行っている。高校訪問は6月に職員と学校と一緒に兵庫県北部、京都府北部、福井県嶺南・敦賀まで約32校訪問している。行政と同行することで面会いただいたり、校長先生にも面会いただいたりということで、一定学校訪問の結果が出ていると思っている。こうして知名度を上げていくことがまずは必要と思う。

(3) 福知山現任者研修について

●福知山民間社会福祉施設連絡協議会

27年4月から、成美大学の校舎を借りて開始している。介護福祉士の実務者研修を9か月間の予定で開催し、計55名の方が現在受講中。喀痰吸引研修について、11月10日から開講し、受講者は30名。介護職員初任者研修は、1月9日～3月29日の期間で実施し、受講者は12名。介護福祉士の国家試験の対策講座については、長期コースと短期コースと開催した。11名、15名の方が受講。現任職員向け研修については、施設で働いている方のスキルアップ研修を16名が出席。介護職員の中堅職員研修は、受講者は37名で、介護職員の契約職員研修は、17名が参加。来年度についても今年の研修の状況に合わせて、同じような形で実施をやっていきたいと思っている。

●福知山市

受講された方は、さらに高いスキルを身につけて、現場に戻っていかれるであろうと考えている。全員が真剣な眼差しで受講していた。今の取り組みや、これから取り組まれようとしている事業の特性を活かしながら、点で動くのではなく線で、北部の介護人材の育成につながるように支援をしていきたい。

●京丹後市

京丹後市の喀痰吸引研修は、今年度は3月に開催予定。毎年開催していただけるということで、各施設1、2名ずつ、毎年増やしてしていきたいと聞いている。

●京都府立医科大学附属北部医療センター

北部医療センターでは、喀痰吸引研修を昨年からやっている。今年は2月中旬に予定している。

(4) 介護・福祉人材確保事業について

●京都府

今年度の京都府介護福祉人材確保推進事業について。北京都ジョブパークの福祉人材コーナーでは、先月12月末までで、延べ相談者数が1,310名、このうち内定獲得が231名。

新規福祉人材養成事業は初任者研修と実務者研修の一部を実施するというもの。昨年10月から今年2月末まで実施。中丹と丹後会場で実施。受講生については中丹23名、丹後16名。

ミニ就職説明会、職場見学や体験会は26回開催して、参加者は延べ170名に来ていただいている。

合同就職説明会について、12月末までに3回実施し、参加者が合計43名。

入門的なセミナーについてはこれまで、10回開催して、全体で68名の参加者。出張相談では6箇所45回開催。

大学実習等誘致事業について、5大学の誘致をしている。中身については3～5日のインターンシップであったり、社会福祉士の資格取得の実習。合計31名の学生に実習で京都北部地域にきていただいている。

現任者向けの研修として、京都府北部地域の若手職員さんに集まってもらい、企画・実施をしていただき、入職後5年以内の方を対象に募集し、参加者は36名。

次世代担い手事業では、小学校2校、中学校4校の計150人に、事前学習から施設体験や学校によっては体験発表をしてもらった。高校生対象の事業では、出前講座として、6校、合計245名の生徒に講義をした。福祉職場見学会では、2校計33名に実施。高校生と保護者との見学会も1回実施している。またインターンシップという形で今年は4校合計26名の生徒が参加。高校教員を対象にした見学会・セミナーを実施し、8名の先生に参加してもらった。

福祉フェスタin舞鶴の結果について、11月22日に舞鶴赤レンガパークで開催。1,964名に会場していただいた。内容としては、福祉をテーマとした川柳を募集しての優秀賞の表彰や、福祉施設の若手職員さんと芸能人とのトークショーなどを実施。アンケート結果では、参加者の55%が満足、83%が

福祉の理解が深まった、福祉について分かりやすく教えていて良かったなど前向きなご評価も頂いた。

●京都府

厚労省の2020年度初頭に向けた総合的な介護人材確保の推進について、27年度補正予算ということで、特に介護人材では、介護福祉士の就学資金貸し付けで261億円を確保された。潜在介護人材の呼び戻しということで、今もやっているハローワーク、福祉人材センターのマッチングに加え、離職した介護人材に対して再就職準備金を20万円貸し付けて、2年間勤めると返還免除される。離職した人材届出システム、全国の介護福祉人材センターに共通のシステムが国のほうで整備される。中高年齢者に対して、ハローワークや福祉人材センターによるマッチング、シルバーセンターやボランティアセンターと府社協・福祉人材センターが連携をとり、職場体験をすすめていく。介護人材の離職事由の上位要因が、結婚や出産・育児であることから、事業者の保育施設の整備などを進めていく。

●北京都ジョブパーク福祉人材コーナー

求職の新規登録者では40代以上の方が増えてきている。求人を出している事業所は長く中心的に活躍する若年人材を求める傾向があり、ミスマッチが出ているように感じる。説明会、セミナー等開催しているが、その募集も新聞折込、HP掲載、カウンセラーが利用者にDM送付したりという、打ち手は打つも昨年に比べて反応がよくない。景気がよくなり求人が増えていることで、福祉への就職だけでなく就職に対しての視野・選択肢が広がっている。福祉の仕事のプラス部分、やりがいや、長くこの業界で活躍したいなど思っていただけのような情報発信を取り組んで行きたいと思う。

●福知山高等技術専門校

離職者求職者向け委託事業として福祉人材を養成するような取り組みをしている。定員の中の一定数受講者が集まらなないと開催できない。その中で、応募ゼロではないが非常に少なく開催できないものがあつた。他の訓練と期間の重複が要因かもしれない。課題と感じている。

●福知山公共職業安定所

介護に関しては、求人倍率が北部3所に関しては、介護職希望147名に対し、313件の求人がある。倍率で2.13ということで、求人のほうがたくさんある。福知山の安定所では、それを意識しながら施連協と協力して、介護職の情報の一覧表みたいな冊子をカラー刷りで作って求職者に提供する取り組みを行った。委託訓練に関して、ぜひ一つ検討してもらいたいの、新規福祉人材の育成について、その時期と被って訓練校の介護サービス科という訓練と重なった。ぜひその件については日程のところを調整いただきたい。

●きょうと介護・福祉ジョブネット 北部ブランドチーム

大学の先生と話す機会があり、何が一番魅力か聞くと、北部まで行くためには町ぐるみでやっているとか、他職種連携のカリキュラムがあるとぜひ行ってみたいという声があつた、福祉の魅力だけでなく、北部の魅力もちょこっと伝えてもらおうと、非常に先生・生徒の記憶にも残る。将来の就職につながる取り組みであり、全ての大学に共通する。

●福知山市

これから京都府北部でどういう風な介護をやっていくのか、市も入れて意見交換できればと思う。3年に一回介護保険計画を作るが、一方で施設を作れという圧力もあってどんどん施設を作るというような必要もあるかと思うが、増床すると人材が厳しい。今までと違ったような、10年先を見ながら少し違った見方、3年間でどんどん施設を作るのではなく、現状の介護人材を踏まえてどうしていくのかを考える場を作っていただきたい。もう1点。実習センターについて、プラスアルファの魅力作りも必要だと思う。福知山の話だが、各事業所からは実習生を受けたい話が寄せられる。大学生の誘致で宮

津センターにしかできないものと、他所でもハード・ソフトがあれば門戸を広げるような仕組みを作ってもらいたい。

●京都府

介護サービス全体を見ている課を含めて、そのような機会を設けたい。

●きょうと介護・福祉ジョブネット 北部ブランドチーム

魅力発信事業、福祉フェスタは現場の若手職員が自らで企画し、実施した。特徴は福祉と無関係の高校生との関わりがあったこと。会場は若い方が結構集まった。この業界は若い子が、元気に福祉の魅力を発信して、福祉の魅力を現場が考えて、言葉を作って発信していくことが重要と考えている。

●高校教育課

高等学校で、ほとんどの子は普通科希望。北部も南部も少子化である一方、大学は減らないので入りやすい。幸いなことにここ 2.3 年就職の現場は非常に好調なため、なかなか福祉業界に導きにくい。出前授業という形で高校に色々な方から指導して頂くことは有効かなと思う。看護・福祉、農林などいろんなところからのオファー多く、いろんなことを子供たちに教えてあげたいが時間的なスペースが限られていて、中々、ご期待に添えていないところがあるが、話を持ってきていただけたら、可能な範囲で協力していきたい。

●京都府老人福祉施設協議会

出前講座では、府立加悦高で同校出身の職員が実施して、毎年 1 名ずつ就職してもらっている。先輩が卒業して6年・7年目の先輩がずっとうちの法人で働いていて、魅力発信できたかなと思っている。

●京都府介護老人保健施設協会

独自に高校、大学への訪問チームを作っている。老健の近畿大会に今年初めて学校生徒含め関係者 50 名弱の学校関係者が参加という実績になった。

●介護福祉士会

入会率は満足できない現状。啓発活動を地道に続けていかなければならない。現任職員の人材育成は簡単にできるものではなく、コツコツ積み上げる必要がある一方、高齢化に伴う、たとえば施設整備のスピードがミスマッチ、食い違いがあるのかもしれない。

●社会福祉士会

社会福祉士の実習のありかたについて、数年前にカリキュラムの変更があって、実習途中に帰校日を設けることとなった。北部地域は距離的なことがあって、それまでは、コンスタントに実習があったが、その頃から来なくなった。そういったハンディがある。できれば北部地域での大学とお見合いの場があれば、1 事業所としての PR は二の足を踏んでしまうので、そういった場があればありがたい。

●京都府看護協会

看護の人材の育成、地域の中で育てていかねばならないと感じた。できるだけたくさんの指導看護師ができて、たくさんの方がそこに参加できるように、業務の中で出すのが大変だというのはわかるので、そういう土台作りに協力していきたい。

●綾部市

人材確保が大きな課題。綾部市に魅力・愛着をもってもらうことを通じて、情報発信なり、できることから働きかけをやっていきたい。

●与謝野町

介護離職者をゼロにする考えの中で、今後特養が増設される可能性が高いと思うが、京都府全体では施設数が不足しているかもしれないが、圏域ごとで考えたときに本当にどうなのか京都府に調整してもらいたいと常々思っている。施設ができれば介護職、看護職が必要になる。枯渇する状況下で、表現悪いが取り合いが起きることがありえる。そのことが介護レベルの低下を招く危険性もある。圏域ごとの必要量について十分にご検討いただきたい。

●伊根町

福祉人材は非常に不足している。福知山、舞鶴で研修受けられるが、伊根からの通いはかなり困難。町内での初任者研修の開催を予算要求している。

3 閉会（京都府）

来年度の取り組みを検討するに当たっての課題について、議論いただいた。十分に踏まえて取り組みをすすめたい。来年度当初くらいにこのような会議を行いたいと思っている。点の取り組みを線にし、北部全体の面的な取り組みを目指していきたい。